（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2292300049		
法人名	株式会社快明堂		
事業所名	グループホーム快明堂		
所在地	静岡県富士市中央町1-10-12		
自己評価作成日	平成31年4月16日	評価結果市町村受理日	令和元年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300049-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町８番地１　柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者のできることに視点を置き、その人らしく、自分の意思で行動できるような支援を目指している。職員一人一人が本人の言葉に耳を傾け、記録に残す事で情報共有し、定期的に支援方法について話し合いの場を設け改善するようにしている。職員から自発的に勉強会をしたり研修に参加し、お互いに言葉掛けや対応の仕方を注意し合うなど、向上しようとする意識を持っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成１９年の開設とあって富士中学校の１年生が職場体験に訪れているほか、「外国人就労・定着支援研修（※）」の受入れは7年目となり、地域密着型事業所としての役割を十二分に果たしてきている事業所です。寸劇では認知症役を中学生が演じる等巻き込みつつ、認知症サポーター講座を通じて「認知症の人を笑顔にするためにはどうしたらよいか」を生徒に考えてもらえる機会も設けています。また外国人の就労支援においては、１０年以上勤務する日系ブラジル人職員がポルトガル語、スペイン語と堪能で、研修生の学びを大いに支援してきた点も評価されます。（※）日本国際協力センター（JICE）が人材確保支援を目的として実施する

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員が考えた理念を記載した内容をフロアに掲示し、朝礼で職員間で共有し、実践に繋がるようにしている	質の向上と法人理念を実践することを狙いとして、職員自身の介護理念を作成しています。事務所をはじめ目に入る場所に掲示し、朝礼でも確認し合うほか、半年ごとに面談の機会を設け、振り返りをおこなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事やイベントに参加したり、買い物でお話するなど、なじみの関係を築けるように交流している	吉原の祇園祭に出かけたり、南町納涼盆踊りまつりでは地域住民と盆踊りを楽しみ、昨年度の県議会選では投票にも参加しています。職場体験では中学生が歌や踊りを披露してくれ、泣いて喜ぶ利用者もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症を理解していただけるように、外出や相談を受けたり、認知症サポーター講座を開催した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回の運営推進会議を開催し、サービス内容の報告や意見交換を行っている。いただいた意見を参考に、サービスの質の向上や職員のやる気につなげている	レジュメ冒頭に運営推進会議の意義を謳い、行政・地域・家族の参加を得て隔月開催が繰り返されおり、議事録の丁寧な記載からも真摯な取組みであることが見てとれます。	家族の出席を増やす努力の一つとして、議事録送付（または内容報告）をおこなうことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度、報告や相談をしながら、適正なサービスが提供できるように努力をしている	地域包括支援センターからの「身体拘束廃止委員会は運営推進会議よりも職員間で開催しては？」との意見をはじめ、市役所からは介護計画書の作成など親身な助言を常に得ていて、運営に反映させています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化についての指針を作成し、定期的な身体拘束廃止委員会や勉強会を開いている。各職員が拘束とは何かを日々のケアから学べるように、意見を出せる雰囲気作りをしている	「身体拘束等適正化についての指針」策定の折には複数回市役所窓口まで通ったうえで、身体拘束廃止委員会の開催を適切に実施しています。本件に係る研修は年2回以上おこない、毎月の勉強会においても職員主体で継続実施しています。	センサーマットについては改めて事業所の見解を明らかにし、必要に応じて書面整備を進めることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を定期的に行い、現状を振り返り、お互いのケアを見直せるように取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学び、制度を必要としている方には、関係者と相談し、支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容が分かりやすいように説明の努力を行い、疑問や不安な点をお聞きしているが、その時に出なくても、いつでもお答えするようにしている。改定等の際は、説明を行い同意をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族から出た意見や要望は、運営にどのような形で反映出来るかを検討するようにしている。例として、ディサービス等のイベントに参加出来るようにしている	運営推進会議の出席も少なく家族会もないものの、月1回程度の面会は必ずあり、要望には都度応えています。また毎月届ける便りの内容も「より伝わるように」と、添削担当の職員を定めて精査を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表と管理者も参加する月に1回のミーティングや、個人面接等で、職員からの意見や提案を聞くようにし、反映できる体制に取り組んでいる 日々、職員とのコミュニケーションを円滑にし、意見を言いやすい雰囲気作りに努力し	毎月のカンファレンスには代表者も出席し、職員意見が実現しやすい体制を整えています。また職員懇親会には法人から補助もあり、実際風通しの良い職場環境であることは訪問者から見ても一目瞭然です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の目標を把握し、達成するための環境を提供して応援する仕組み作りを手掛けている（研修参加・実践や発表の場の提供・手当支給・賞与基準への反映）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の得意な分野を活かし、不得手な分野はチームとして他の職員が補い、参加して改めて気付くことができ、現場に反映させることができる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会が主催する管理者会議、研修、交流会、交換研修には必ず参加し、他事業所との連携を実施している。計画作成者は協会に入会し、情報収集を図り、ケアの質の向上を実施している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安に思うこと、またやりたいこと等を否定することなく受け止め、信頼関係が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族として困っている事やどうしたいか等の訴えに耳を傾け、どうしたら安心できるかを考え、お話するようにしている いつでも相談やグループホームに訪問できる体制を整えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の相談に耳を傾け、必要と思われる支援がある時は、家族に情報を提供したり、関係者と相談しながら対応を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士が助け合い、生活の場として過せるように、職員が間に入っている。また、一緒に行動したり、笑顔がでる関係を築けるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月文書で日々の状況報告を行い、家族の訪問時は職員が話を聞く等、情報を共有し合い、本人を共に支えるという良好な関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人等の面会を依頼するが、実際に来られる方は限られている。本人が好きだった踊りや歌に参加したり、店や公園等の知っている場所に行くことで刺激を受けられるように取り組んでいる	数独や新聞購読、日記等、習慣や趣味を続けることができています。上司が訪れるほか、県人会に職員同伴で出かけたり、またウィーンで楽団にいたという人の許にはコーラス部隊の来所があったこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はフロアで自由に過ごしている。利用者同士のトラブルも多いが、わけるのではなく、同じ空間で過ごせるように職員が間に入り対応している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に入った後でも、相談や、安心して過せるように支援の対応を行った		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、又は在宅時のケアマネージャー等から情報収集を行い、本人らしく生活が出来るように検討している。また日々の本人の言葉や行動から意向等を把握するように努めている	読み取った表情や発語は、センター方式のシートをアレンジしたオリジナルシートに記載しています。1日の様子が把握できるよう工夫され、本人の意向や想いに応えた事例が日々輩出されていることを確認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、又は在宅時のケアマネージャー等から情報収集を行い、習慣を継続できるように検討している 例えば新聞を読んだり、日記をつける等		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状を把握し、出来る事を引き出せるように取り組む機会を設けるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、職員が1人1人の状況を確認し課題を話し合っている。家族からの意見は電話や面会時に聞くようにしている	書面については介護支援専門員が行政指導に基づいて責任をもって執りおこなっています。職員の知識の標準化には課題が残るも、カンファレンスでは自発的な発言も徐々に増え、前進がみられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の表情や言葉、職員の対応等を個別記録に残しているので、支援方法および計画作成の見直しに活かせている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のイベントに参加したり、交流を心掛けることで良好な関係を築き、助け合える体制作りに取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町内会長、地域の方からの情報をいただき、お祭りや、避難訓練、買い物等に行けるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は、本人や家族の希望を確認した上で主治医にお願いしている。往診時は職員や看護師が日常の様子を報告し、診察を受ける 体調不良や急変時は主治医との連携を行い、家族の意向を確認後、受診している	往診対応もあるかかりつけ医を継続する1名以外は、月1回の訪問診療をおこなう事業所の協力医に変更しています。専門医の通院介助をおこなう家族とは情報交換は密にとり、特に精神科は書面を使用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況を観察し、様々な症状や対応について気が付いたことを看護師に相談したり、実際に確認してもらい、受診の有無の判断を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中やリハビリの様子等を把握できるように、家族や病院関係者との情報交換や共有に努めている。退院後、普段の生活に早く戻れるように支援体制を整えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合や終末期についての説明を行い、本人や家族の意向を確認している 身体状況が変化した時に、主治医と相談し、家族の終末期に対しての意向を確認しながらケアの方向性を決めている	意思確認書は契約時に交わしていますが、日々変化する家族の気持ちも記録しています。勤務の看護師も加わった取組体制は盤石で昨年は2名を見送り、好きな歌い手の曲を流すなど「なるべく普段通りに本人本位」をモットーとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行っているが、急変時や事故が発生した時に慌てない様に、対応の仕方を作成、台所や事務所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、通報や消化訓練等を行っている。災害マニュアルを作成し、備蓄の管理を行っている	年2回の法定訓練を含め防災委員が年間計画を立案しており、同建物内の事業所との合同訓練もおこなっています。またこれまでの活動を通じて、隣家の住人や近隣の障害者施設とも協力関係を構築しています。	近隣の施設とはBCPを含み、協力関係を書面化できるようなレベルを目指し、具体的な協議が進むことを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の丁寧な言葉使いや、プライドを傷つけることがないように声掛けをするなど、日々、職員同士が注意し合えるような体制にしている	合同会議にて接遇の内部研修が実施されるとともに、外部研修にも参加しています。年長者には「ですます」、控えめな声のトーンで一人ひとりに語りかけるように、ということが浸透していることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が、本人の思いや希望を引き出せるように声掛けをし、自己決定が出来るように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間など、基本的な事は決めているが、散歩や昼寝など本人の希望を聞きながら対応したり、作業を取り入れている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、訪問美容を利用し、カットや染め等本人の希望に合わせている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な料理の下準備や下膳等はできるが、重度化がすすみ、料理を一緒に作れていない 食事を楽しみにしている利用者がほとんどで、職員も一緒に昼食を摂ったり、お茶を飲むようにしている	利用者と園芸担当職員で栽培した野菜を収穫する歓びもあり、野菜の色かたちを目で堪能し、十分話材としてから調理にかかるといった配慮もあります。またイベント食で季節を感じてもらうことにも工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に合わせた食事形態や、本人の希望でパン食にする等している 食事や水分摂取量を把握し、体調や体重とのバランスも考慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、磨き残しがある場合は職員が磨き直しをしている 歯磨きの拒否がある利用者に無理強いできないが、夜は磨くことを目標にしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自宅でテープ式おむつを使用していた方も、歩行が出来る方はパンツ式のみにし自分で着脱が出来るように支援している。自力で排泄が出来ない方は、日中はパンツ式にし、定期的にトイレでの排泄を促す	排泄チェック表と職員の気づきで誘導するよりも、本人の尿意や発意に因る自立支援に力を注ぎ、自宅ではパッドを数枚を重ねていた人が自分でトイレに向かうようになった例もあり、大半が向上しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をつけることで、排便状況を確認し、水分補給や食事に気をつけ、毎日ヨーグルトを提供している。主治医と相談し、各自の状態に合わせて下剤を服用する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2回のペースを目標にしているが、拒否等で間隔が空くことがある。職員体制上時間は午後になる。湯船につかりたいという意向で、浴槽の出入りを職員2人で行うことがある。汚染時はその都度清拭、洗浄対応している	足し湯で週2回を目安としている入浴は一般家庭にあるような浴槽のため、要介護5の利用者には湯に浸かる悦びを味わってもらうため職員2名で介助しています。ゆず湯や浴剤も利用者に好評です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も本人の意思で休息が出来るように対応している。夜間眠れない時は、職員が話し相手になったり、フロアでゆっくりくつろいでいただき、眠くなるのを待つ。夜間帯の不眠が続く時は、生活パターンを見直し、職員で話し合うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の開始や変更になる時は、職員に内容と理由を書面で周知する。服薬介助は、ミスがないように、3段階の確認作業を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、下膳、脳トレーニング等、達成感や役に立つ感覚を感じていただけるように感謝等を伝えながら取り組んでいる。好きなコーヒー類の提供や散歩を兼ねたゴミ捨て等で気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて散歩や外気浴を行い、近隣のお店で、淹れて頂いたお茶を飲みながら交流したり、お祭りや駅伝の応援に出掛けるようにしている。ご家族との外出をサポートしている	初詣は吉原の天神社へ、中央公園へはバラ鑑賞に出かけ、本年は事業所前の桜の盛りを見計らって外でお茶を飲みつつ眺めた日もあります。駅伝応援も欠かさず、地域の祭りにも出て、本人が「行きたい」となれば家族の協力を得る等して個別対応としています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある時は、お小遣いを預かり、職員と一緒に買い物に出掛けたが、現在は、希望がなく、金銭管理が難しい為、立替えしている。食材等の買い物時に支払いをするなど、使う経験をしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をすることが出来る事を伝え、本人から希望がある時は、職員が取次ぎ、電話をかけている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態に合わせて、テレビの音量や光の調整を行い、過しやすいように、ソファーや椅子の位置を工夫している。室温湿度は温度計で確認し、調整している 季節感を取り入れた飾りつけをするようにしている	4畳半の畳エリア、3人掛けのソファーと丸テーブル3つだけでいっぱいになるリビングで、車いすが通るにはやや狭いのは難ですが、利用者には自分の居場所がそれぞれあり、語りかけるような職員の口調が子守歌のようで、静かな時がゆっくり流れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時は、定位置で食べていただくが、それ以外は自由に移動できるようにしている。ソファーに座って話をしたり、畳に寝転がる等、思い思いに過している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品等自由に持ち込めることになっているが、荷物によって混乱し、減っていった利用者もいる。家族と相談し、落着ける部屋作りに配慮している。ドアに大きめの名札をつけることで、自分の部屋だと分かり安心される方が多い	ベッド、エアコン、カーテンが備えつけられた居室には十分な収納ができるクローゼットもあるためか、家具類の持込みは少ないものの、小物にその人らしさが滲み、また扉の大きな表札が存在感を醸し出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように名札を大きくし、食後カウンターに歯磨きを並べ自分で選べるようにしている。歩行が出来る方は、自分からトイレに行けるように、その方に合わせて取り組んだ		